

2022年度 学校評価のまとめ

2023.3.23

本園の【教育目標】の実現を目指し〔教育方針〕を実行するために、2022年度10項目の重点目標を定め、その達成のために具体的方策としてそれぞれの項目に実施計画を立てその遂行に努力した。

【教育目標】

1. 負けない心の太陽の子（つよく）
～自分の弱い心に負けないことが本当の強さであることを知る～
2. お友だちを大切にする太陽の子（ただしく）
～互いを尊重し、違いを認め合う心に正しい行動の源泉があることを学ぶ～
3. 明るく朗らかな太陽の子（のびのびと）
～主体的な遊びの中で生きる力を身につけていく～

〔教育方針〕

1. 創立者の願いと期待を伝える（教育目標1, 2, 3）
2. 一人一人の人格を尊重し、寄り添い続ける（教育目標1, 2）
3. コミュニケーション能力を養う（教育目標2, 3）
4. 自他共に大切にする心を育む（教育目標1, 2, 3）
5. 日常生活や遊びの中で、社会性を高める（教育目標2, 3）

〔Ⅰ〕 創価教育「最初の門」に相応しい3年保育内容の充実

1. 学園3大記念週間・3学期「ありがとう週間」の取り組みによる心の育成
2. 創立者著作の創作童話を読み聞かせ等、学年に応じて保育実践に展開
3. モットー、3つの指針、入園メッセージを学年に応じて保育実践に展開

4.7

4.2

3.6

【見解】 3大行事に向けての取り組みは成果を上げている。創立者童話の読み聞かせ等も実践されている。モットー、入園メッセージ等の展開はまだ工夫が余地がありそうだ。

〔Ⅱ〕 未来を創る教育課程（カリキュラム・マネジメント）の推進

1. 「子どもの主体的な遊びや活動を通しての学び」を育む保育実践を探求
2. 日常的な遊びや生活の中での非認知能力の育成
3. 各種行事再編成と現行の保育内容の精選を推進
4. 「おうちえん」や各種たよりで、保育内容の保護者理解を深める
5. 保育内容におけるユニバーサルデザインを推進

4.4

4.4

3.8

4.5

3.7

【見解】 主体的遊び中心の保育は定着した。教員同士での交流を促進しさらに進化させていきたい。行事の効率化も進めながら、保育内容のユニバーサルデザインについても具体的に進めていきたい。運動会は「つどーむ」開催を定着させていきたい。

〔Ⅲ〕 世界に開かれた心を育む幼児教育の充実

1. 海外幼稚園・姉妹校交流・創大生創価幼稚園訪問団・ゼミ生との交流の充実
2. グローバルタイムの充実（海外からの来園者との交流）
3. 専門講師によるインターナショナルタイムと日常保育の連動 ～挨拶の言葉を軸に～
4. 体操教室を軸に年間を通じた基礎的な体力向上の取り組み推進 ～重点取り組みの設定～

4.3

3.7

3.9

4.1

5. 食育指導の充実	3.6
6. 自然環境教育の推進（池田自然広場・園庭の植栽を通して）	4.3
7. 伸びやかな絵画制作と創造性育む制作活動の推進	3.9

【見解】 創大学生との交流・ゼミ研修を再開することができ、園児の喜びは大きかった。今後も連携を深めながら、無事故の交流を続けていきたい。海外姉妹園との交流を実現し、グローバルタイムにも生かしていきたい。

〔IV〕 豊かな心を育む絵本教育の充実

1. 絵本環境の充実	4.2
2. 「豊かな心を育む物語・絵本から広がる保育」の深化と具体事例を積み重ねる	3.9
3. 創立者の創作童話の読み聞かせや総合的展開を各学年で充実	4.2

【見解】 絵本の読み聞かせは日常的に行われている。絵本教育についての教員研修を行うことでさらに充実した絵本教育ができるのではないだろうか。

〔V〕 「安心・安全」教育・施策の充実

1. 通園バス無事故運行と「れんらくアプリ」の更なる充実	4.1
2. 園児バス乗車時想定訓練の充実（バス事故・車内嘔吐等への教員実地訓練）	3.7
3. 園舎内外・通園バスにおける冬季安全策の充実 ～バス運転手・警備員との連携強化～	3.8
4. 自然災害や防犯を想定した総合的な防災安全計画・防災教育、机上訓練の充実	4.1
5. 健やかな心身を育成する屋内遊具の充実	4.5

【見解】 年々向上しているが、「安全」に関しては油断を排し、できることを速やかに行っていきたい。また、バス運転手には常に安全運転を喚起していきたい。

〔VI〕 寄り添い伸ばす個別支援教育の充実

1. 家庭訪問(電話)・個人面談(電話)・子育て相談等で保護者との連携推進	4.3
2. シェアタイム・事例研修を軸にした情報・目標共有によりチームとしての育成推進	3.9
3. 専門機関（おがる）との連携を深め、個別支援・保護者相談・教育講座を充実	4.5
4. 特別支援研修会への派遣と研鑽成果の園内共有の推進	4.1

【見解】 「おがる」との連携が定着し、教育講座も開催することができた。今後もフィードバック・保護者面談も含めて継続していきたい。保護者との連携では高い評価（保護者から）を得ているので、本園の良き伝統としていきたい。

〔VII〕 就学連携・卒園生支援の充実

1. 幼保小連携推進協議会・就学先との就学連携の充実	3.9
2. 就学前の「学びの姿」を育成する教員研修と保育実践の積み重ね	3.9
3. 東西創価小学校への教員研修で、就学時子ども像を多角的に研鑽	4.3
4. 卒園生大会の充実	4.5

【見解】 創価小研修の再開で、年長卒園時のイメージを再確認できた。地域的な幼小連携以上に創価一貫教育の中で、実のある幼小連携を進めていきたい。卒園生大会も良き伝統として継続していきたい。

〔Ⅷ〕 豊かな幼児期を支える子育て支援の充実

1. 延長保育「ひつじっこクラブ」の運用充実
2. 保護者相談（おがる以外）の充実

4.3

3.8

【見解】 ひつじっこクラブの時間延長を実施し、保護者のニーズに応えてきた。保護者相談については、内容に応じて担任・園長に加えて大友先生の力もお借りしていきたい。

〔Ⅸ〕 園児募集を推進する広報活動の充実

1. HPの充実、HPで保育の様子を発信
2. 見学会・説明会の充実
3. 3月の園児追加募集の適正実施

4.5

4.5

4.3

【見解】 就園児前教室「にこにこ広場」の再開を検討していきたい。入園志願者の確保のための広報活動の検討も必要と考える。

〔Ⅹ〕 教育環境の整備と活用

1. 各保育室の環境整備
2. 園舎の環境を生かした新しい遊び文化の計画
3. 園庭での新しい遊び計画

3.7

4.1

4.2

【見解】 保育室の環境整備は課題。素晴らしい園舎・園庭を最大限に生かして新しい主体的な遊びを創造してけるようアイデアの共有が望まれる。

◆各項目5段階評定の目安

- A（5）…取り組みが十分に進んだ／十分な取り組みが出来た
- B（4）…取り組みがある程度進んだ／ある程度しっかり取り組めた
- C（3）…取り組みが少しは進んだ／取り組みが進んだ部分もあった
- D（2）…進んだ取り組みもあれば後退したものもある
- E（1）…取り組みが後退した／これまでに比べて取り組みが出来なかった

◆園内評価実施にあたって

- 1) 上記の各項目評定は5段階とし、記述評価と共に全教職員で実施した。
- 2) 自己評価にあたっては、2月に全保護者を対象としたアンケートを実施し、保育の重点や子育て支援等についてご意見を伺い、園内評価委員会にて、課題と今後への取り組みに反映させた。

◆学校関係者評価委員の皆様からの評価（別紙に詳細）

保護者・守る会・卒園生それぞれの立場から、本園に対する過大な感謝の言葉をいただいた。遊び中心の保育へのご理解も深まってきたと感じる。コロナ禍で失った保護者同志が繋がる機会を望まれている。来年度の課題と受け止めている。

◆財務状況

例年、5月度評議員会・理事会により、適正であると認めて頂き、8月の公表に進む。